



波濤

第 2 9 号
 学 会 会 成
 会 員 数
 8 5 1 名 (平成17年4月1日現在)
 発 行 放 送 大
 神 奈 川 同 窓 会
 編 集 総 務 委 員 一
 責 任 者 五 十 嵐
 発 行 日 平 成 1 7 年 4 月 1 日
 会 員 数

同窓会設立十五周年記念行事 開催のご報告

神奈川同窓会

会長 五十嵐 一成

平成十七年二月十二日(土) 十三時より、同窓会設立十五周年記念行事として、公開講演会とパネルディスカッションが神奈川学習センターとの共催で開催されました。

公開講演会は、保護司(平成二年卒)の加藤 あいし 氏による

「青少年の非行と犯罪について」
 その現状と予防・更生への援助

という演題でお話を伺いました。

パネルディスカッションでは、

「放送大学生の明日を探る」
 どのように学び・そして活かしたか

というテーマで四名の卒業生からお話を伺いました。

参加者は七十名を超え、講演とパネルディスカッションのお話を伺ううちに、我が身を振り返るとともに、啓発と触発を受けたというご意見を頂くことができました。

十五周年という節目において、このような行事を開催できたことを、役員一同感謝しております。また、皆様の更なる活躍の一助になれば幸いと存じます。

※同窓会設立十五周年記念フォーラムの詳細につきましては、本誌二頁に掲載しています。

身近な社会貢献への

参画についてのご報告

前号の波濤でご報告致しました、横浜市立相武山小学校での教育ボランティアへ参画して参りましたので、ご報告致します。教育ボランティアの内容は、一年

生と三年生のパソコン授業のサポートです。事前打合せが昨年十月二十日に、三名のボランティアと担当教諭とで行なわれました。授業内容は、一年生、一太郎スマイルを使用して描画作成を行なう。三年生、事前に詩を用意しておき、一太郎スマイルで背景や画像を挿入して文書作成を行なう。授業は一斉授業形式ではなく、個別指導で行い、一クラス四十名を半数ずつに分け、一校時二十名で実施するという内容でした。

授業は、十二月十四日・一、四校時三年生、十五日・一、四校時一年生、十六日・一、二校時一年生の合計十校時間のボランティアとなりました。

感想…

授業が始まると一斉に先生・コールが始まり、担任教師を含め三名体制での対応でしたが、いつの間にか校時終了のチャイムとは関係なく授業が進捗し、休憩時間もどこえやら、気がついた時には四校時目が終了しているという状況になっていました。

慎重にパソコンに向き合う子、何をしてもよく分からない子、分からないながらもドンドン操作を進めていく子、仕上がりが気に入らず最初からやり直しを始める子等、様々な状況での授業でしたが、何とか完成した作品をプリントアウトし、友だちと見せ合いをしている時は、とても嬉しそうな表情を見せてくれました。

授業終了後は子どもたちと一緒に給食を過ごし(椅子が小さくて困りました)授業は大変忙しい思いをしましたが、とても有意義な時間を過ごすことができましたと感謝しています。

帰り際に校長から「次回は夏休みにお願います。」と申し入れされた時は一瞬息を呑みましたが、この感想を書いている中、今では夏休みを楽しみに待っている私がおりました。

五十嵐 記

第十六回通常総会及び 講演会開催のお知らせ

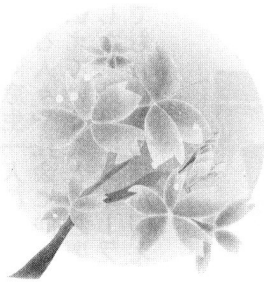
神奈川同窓会第十六回通常総会及び講演会を開催致しますので、お知らせ致します。

【総会】

日 時 平成十七年五月十五日(日)
 午後一時～
 場 所 神奈川学習センター講義室

《議案》

- 一、平成十六年度活動報告
- 二、平成十六年度収支・決算報告
- 三、平成十六年度フォスター・プラン活動報告
- 四、平成十六年度フォスター・プラン収支・決算報告
- 五、平成十七年度活動計画
- 六、平成十七年度収支・予算
- 七、平成十七年度フォスター・プラン活動計画
- 八、平成十七年度フォスター・プラン収支・予算
- 九、その他(報告事項)
- 十、平成十七年度役員選任



【講演会】

日時 総会終了後二時三〇分～四時
講師 放送大学助教授 医学博士
白井 永男 先生

専攻分野

運動生理学

演題 自活できる能力を保持するために

体力は、二十歳代をピークに加齢とともに低下傾向を示す。少子高齢化社会を向かえ、高齢者の介護を高齢者が担う時代となった。介護をするためにはそれ相当の体力が求められる。しかしなにより介護を受けることなく生涯を全うすることが望ましい。今回は、寝たきりにならないためのいくつかの課題を提示したい。

【懇親会】

講演会終了後懇親会を行います。皆様の参加をお待ちしています。

同窓会設立十五周年記念行事の概要と担当者プロフィール

公開講演会

加藤 あいし 氏

平成二年卒（生活と福祉）
保護司

横浜市旭区更生保護女性会会長
神奈川県薬物乱用防止指導員

演題 「青少年の非行と犯罪について」
その現状と予防・更生への援助

パネルディスカッション

「放送大学生の明日を探る」
どのように学び・そして活かしたか

パネリスト

中川 英子 氏

平成元年卒（生活と福祉）

宇都宮短期大学 人間福祉学科 教授

研究テーマ：介護福祉のための家政学」他

池永 康子 氏

平成三年卒（生活と福祉）

平成七年卒（人間の探求）

社会福祉士・（社）神奈川県社会福祉士会
理事（資格取得委員会）

古野 高根 氏

平成十六年卒（大学院政策経営プログラム）

東京経済大学大学院

経済学研究科後期博士課程在学中

研究テーマ：「二十世紀末日本経済」

加藤 あいし 氏

平成二年卒（生活と福祉）
保護司

横浜市旭区更生保護女性会会長
神奈川県薬物乱用防止指導員

コーディネーター

五十嵐 一成

平成二年卒（発達と教育）

神奈川同窓会会長

放送大学、大妻女子大学他で情報処理系の講座を担当

「同窓会設立十五周年記念フォーラム」を聴講して

伊藤 泰史

同窓会会員の私は、今年の一月にこのフォーラムの開催を知らせるお葉書を頂き内容に魅力を感じてすぐに参加を心に決めました。私たち同窓生にとっては、またとない貴重な機会が与えられたことに心から感謝しております。実際に参加してみても同窓

生の活躍する姿に接したり、また、それぞ
れの方の人生の中で放送大学の占める位置
や意義を知らされたりすることは参加前に
想像していた以上に私を活性化させ力づけ
てくれました。

第一部の加藤あいしさんの講演では「保
護司」という職務についての具体例を交え
ながらのお話から、子ども（青少年）にと
って「居場所」のある家庭の必要性や、子
どもの誤りを注意する大人の勇気の大切さ
といった我々の日々の心掛けを促すよう
内容に特に心を動かされました。また、加
藤さんの保護司のお仕事に放送大学で学ば
れた心理学・社会学・社会福祉学などが
「今日に至るまで大いに役立っている」と
いう体験談には「我が意を得たり」とい
う思いが致しました。



〈公演中の加藤 あいし 氏〉

第二部の、加藤さん・中川英子さん・池
永康子さん・古野高根さんと五十嵐一成
長によるパネルディスカッションでは、放
送大学での学びや人々との出会いを経て入
学前には予想もなかったような人生の展
開があり得る、ということやパネリストの
方々のお話から知ることができ私自身の今
後の人生に対しても新たな希望が湧いてく
るような予感が致しました。そして、改め

てこういった同窓生一人ひとりの体験を大
学の外にいる人々や社会に向けて「生きた
言葉」で伝えていくことの必要性や責務も
痛感しました。最後にフォーラム後の懇親
会の席上でも有益なお話伺え有り難く思
います。



〈パネルディスカッションの風景〉

第二部 パネルディスカッション 「放送大学生の明日を探る」を聞いて

佐藤 美津留

冒頭から、いずれも劣らぬ活気溢れる四
人の同窓生によるお話を伺い、やはりこれ
こそが放送大学生の真髄と感じた。それは
全員が放送大学で学んだことを良きステッ
プとし、その後も揃って、並ではない前向
きの姿勢でチャレンジしていらつしやる、
という事である。それでこそ、現在のよう
な活躍に繋がっている事がはつきり領け
た。且、皆様から放送大学の勉強が大いに
役立ったとお聞きし、今後に大きな勇気を
頂いた方も多いと思う。お一人ずつの経歴
については、プロフィールの欄でご覧頂く
として、それぞれのお話の中で、そこがご
活躍の原点、と感じたことを少し述べてみ
たい。

中川英子さん（以下敬称略）が、放送大学で学んで、目から鱗と表現なさったその経験は、多くの方にも通じるものがあると思つた。その体験として、経済学を勉強するうち、結婚以来二十年間つけてきた家計簿が研究の対象になると知つた驚きと喜び、それが後に大きなプロジェクトに参加するチャンスへ、さらに大学院への道へとつながつた事である。現職に就いてからは、単身赴任、ハードな遠距離通勤、多数の論文書き、と並外れた頑張りには放送大学魂を見た思いがする。

第一部で講演もなさつた加藤あいしさんは全く未知の土地に転居した時「転入者こそ先ず地域の役員に」と請われた事が、現地域社会との関わり始めとの事。その中でも力を買われて見る見る指導的ポストに就かれた。それはかつて子供さんが属したボーイスカウトの役員経験やお若い時のキャリア（旧総理府時代）に加えて、放送大学の勉強が加わつた強みであろう。お人柄も含めて現職の保護司は必然の結果と思えた。大学同窓会の功労者であり、フオスタープランの創始者でもある。

古野高根氏は初の放送大学修士課程修了者のお一人で、これからその方向へ希望される方には良いアドバイスになつた事と思う。指導の先生方からは、歩んでこられた他大学院と同様の高レベルのものを求められる厳しさがあるし、一方、懇切丁寧な指導を受けた感動もあつたといふ。大学院で学んだ事は、論理的思考、や、人に解り易く話す訓練であり、何よりも強調されたのは、大学院で何を勉強したいか、その方向性に確固たるものが無ければ、2年間は無為に終わってしまうという事であつた。

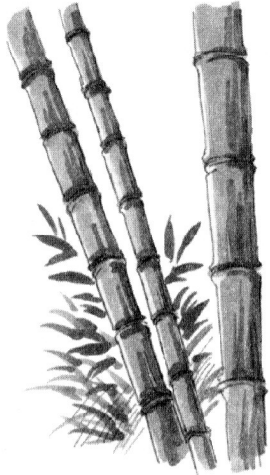
入学に関する要件（研究計画提出やテスト）に関しては、コーディネーターの五十嵐会長からも説明があり、大学院に関する展望が開けたと思う。

池永康子さんは、地域のボランティアをする中で、もっと勉強したい意欲にかられて放送大学に入学、その後卒論や福祉関係の良き先生・友人たちとの出会いがあつて、当時スタートした難関である社会福祉士試験に挑戦し見事に資格を獲得された。ただし、そこに至る、受験資格を得るための養成専門学校卒業迄の驚くほどのパワーと努力（広島までスクーリングに通われた）には、感嘆するのみである。これこそが、現在の重要なポストで活躍される源であろうと推察できたのである。

以上4人の方に共通するものを挙げれば、やはり放送大学入学を選んだ時の真摯な学習意欲であり、その後の並大抵でない努力が見事に結実したという事であろう。内容豊富な体験談のほんの一端しか書けず残念である。

藤田 茂光 氏 講演会 「禅と心」

十一月十四日、神奈川県学習センターで藤田茂光氏により「禅と心」を講演して頂きました。当日は、出席者を百人近くを数える程の活況を呈しました。氏の二十数年に亘る禅修業者としての体験、又、広範な哲学の知識に基づき、精神の有り様に焦点を当てた講演に関心の高さが伺われました。



「禅と心」の聴講―感ずるままに

亀倉 邦男

人の心は、日々の期待と嫉妬と不安と恐怖の連鎖の中でもがき苦しむ。そして老いの兆しが見え隠れする頃、間近に迫る死の恐怖へと変節する。

藤田氏は、「禅と心」の講演の中で、生ある誰もが直面する苦界の蜃気楼―自らの心を作り出す妄想―を自らの赤裸々な体験を通して学問や知識ではなく、禅行を以つて一刀のもとに断ち切れることを知つたといふ。

己が現実をあるがままに直視し、認め、受け入れ、静かに慮り、そして慮りを静かにする坐禅こそ真の自己と対峙し得るひとつの方便であると、聴衆の面前にひらけてみせた。

そうして、己事究明―心の転換という難事を果たしてこそ、従容として生き、従容として死に立ち向かえるのだと喝破した氏の覇気せまるなかにも訥々した語



〈公演中の藤田 茂光 氏〉

り口は、聞く者を確かな安心の世界に誘い込んだかにみえた。聴講終わるころ、「生易しいことではないけれど、自分の選択（禅行の実践）は、間違っていないかつたのだな・・・」と、安堵とも確信ともつかぬ深い溜息ひとつ、私は、自らに言い聞かせるように呟いた。

「禅と心」を聞いて

倉田 寿代子

講師でいらつしやる藤田茂光さんは、人生に於ける心的苦悩が、放送大学入学と、哲学を専攻する動機となつたそうです。

お話しでは、西洋哲学の歴史的経過の中に「自己存在」という概念が中心になつていく点を指摘され、東洋では、「いまここにいる、有ること」を大切にして生きていくこと・・・と相違点など話されました。

その他幾多の御苦勞のお話しもございましたが、最終的には従容として死ぬことが理想とお話しで、今現在も真の自己との出会いに精進を続けておられます。悟りの境地かと思われまふ。従容とした死は「与えられた命をいづばいに生きる」こと、説明されました。私も藤田さんと同窓会でお会いした後、お導きで坐つて居ります。大変に興味深く拝聴することが出来ました。年を重ねる毎に坐つている今こそ自分の時間であり、自己と向き合い、自己認識の大切な時間なのだという思いが強くなつて参りました。

静かなお寺の早朝座禅は鳥の声や風の音など自然の営みの声の中に何時しか埋没してゆく自分を感じることもありすが、悟りには程遠い様に思われます。しかし静かになつた心の中から見えてくるものは寛容の心、優しい心、慈悲の心、そして愛の心だと信じています。藤田さんのお話しを通して、現代社会に溢れる諸問題を根本的に考える糸口にもなればと思ひ、これからも精進したいと思ひます。

放送大学神奈川同窓会の会誌「波濤」の第二十八号にて案内のありました鎌倉散策―寺巡りのイベントに参加しました。当日の天気は薄曇で風もなく絶好の散策日和でした。鎌倉駅東口に集合した参加者は二十八名、会員のご家族の小学生の方から佐藤先生のお友達の外国人の方までバラエティーに富んだメンバーとなりました。

さて、定刻の一時十五分に駅前をスタートして役員の方の振りかざす「放送大学の旗に従って最初の目的地の妙本寺に向かいました。境内を思い思いに散策した後、若いご住職の講話(約四十分位)をじっくり味わいながら拝聴致しました。お話の主たるは妙本寺の起源と、日蓮上人の教えについてでした。それによりますと、建仁三年(一一〇三)、北条



《鎌倉 妙本寺にて》

時政に滅ぼされた幕府の重臣・比企能員の難を逃れた末子、比企大学三郎能本が後に日蓮に帰依し、一族の菩提を弔うために建立し、日蓮宗池上派の格式高い寺として参詣人も多いとのこと。

境内の右手の山裾には二代將軍頼家の子、一幡の袖を埋めたという袖塚や苔むした比企一族の墓があり、多くの人々がお参りをしておられました。又大乗仏教、小乗仏教などの基本的な違いについて詳しいお話をさせていただきました。

この妙本寺で予定の時間を多めに費やしましたので、予定の本覚寺、安国論寺を割愛し、妙法寺に向かうことになり、約一キロをゆっくり歩いて苔寺の入り口に到着しました。日蓮上人が安房から鎌倉に来てしばらく住んでいたとされるゆかりの寺で、延文二年(一三五七)に日叡上人が父である護良親王(建武の中興に尽力しその後、鎌倉二階堂に幽閉され没した)の菩提を弔い堂塔伽藍を造ったゆかりのお話と、当時の仏教と政治との関係及び日蓮上人が果たされた使命などについて本堂の前でご住職が約三十分お話をされました。本堂の右手を廻り、かなり急な石段を登りつめると護良親王の墓、日叡上人とその母、南の方の墓にお参りすることが出来ました。丘の上からひっそりとした深い木立を越えて鎌倉の海を垣間見た時、時代を超えた心打つものを感じる事が出来る神聖な雰囲気でした。日常の多忙と喧騒の世界を離れ、ほっと精神的に一息つく機会を持つことが我々現代人にとって必要なのではないかと言うことを今回の鎌倉散策が教えてくれたようです。その後五時近くになって、鎌倉駅前に戻り、第二の目的である懇親会に移行しました。「峰本」で十八名の参加者一同、楽しい食事と語らいの二時間を過ごし、親交を更に深めることが出来ました。

Kamakura is definitely one of those places where one can go repeatedly for many times, and still find new and exciting things to enjoy. They certainly need not to be some of those major tourist attractions (although these are impressive too!). It can be just a modest shrine well hidden in the trees behind those numerous small streets of Kamakura. A moss covered old stone lantern. Or autumn leaves scattered on the temple ground. Immersed in silence and solitude, interlaced with that feeling of the immediate presence of generations who had been there before? and yet, who seemingly, never left. Those places, where yesterday, today, and tomorrow are so immensely close to each other. Thank you very much for this opportunity to come back to Kamakura again, together with all of you, which made it so very much more enjoyable. Yet another side of the same Kamakura.

Arunas Kucinskas

映画鑑賞会&お話し

西浦 久晏 氏

横浜映画研究会会員

頼成 敦子

「シカゴ」二〇〇二年 アメリカ映画
平成十七年二月二十七日
神奈川学習センター講義室にて

西浦氏の「お話し」の中から

参考にしたこと

「シカゴ」は一九二〇年代のアメリカを扱っている。

音楽、ダンス、歌、ストーリーのある

ミュージカル映画

私に下さったキーワード「卑猥」

私に教えてくださった物語の骨格

スターを夢見て名声を得た物語



《講演中の西浦 久晏 氏》

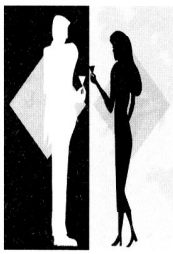
感想

(1) 音楽はジャズに違いない
頭が特に圧倒されて映画終了後もなかなか元に戻らなかつた。すこし日を置いてからあの音楽はジャズかもしれないと思い電子辞書でジャズを調べる。ジャズはアメリカに発生した民衆音楽。二十世紀初めからの音楽。躍動的調子やリズム感を持つことを学ぶ。だから私は情熱のたぎりを感じてしまったのであるが、残念ながら私の好みではなかつた。私が好きな所は最初の部分。音だけのトランペットのようなソロと同時に写ったひとつだけの目の大写しである。かすれたソロの音色に魅力も感じた。あの目はソロ奏者の目かもしれないと思つた。ジャズの静かな一面であつた。

(2) 当時の服装をたどつて第一のテーマに到着

年表で一九二〇・三十年代のジャズエイジの服装を調べる。「女性が職業をもち社会に進出するようになり、服装もショートスカートのようになり、服装もショートスカートのように機能的なものになつた。また、男性は背広が定着した。」女性のショートスカート姿も記憶にあるが省略する。男性の背広姿は3人思い出せる。1番目は主演の弁護士役。彼は舞台上で大勢の女性ダンサーと共に踊るときも、刑務所で五、〇〇ドル持つて来れば助けてあげるとふれ蒔くときも、机で実務をとるときも上等の背広姿。2番目は主演女優の夫役。妻は夫のピストルで殺人をする。相手は彼女を騙した卑猥男。殺人は死刑がお決まり。夫は二、〇〇〇ドルと少しの金を持って弁護士を訪ねる。弁護士は妻を助けるために金を出すとは偉い、と言うが金が足りないのを断る。夫は諦めて金をしまおうとする。その手を制して「お引き受けいたしましょう。」と言って金を確かめもしないで、机の引き出しに流し込む。根っからの金の盲じやではないのだ。夫は喜んで礼を言う。たちまち夫の所だけ非現実的に切り替わる。夫は正面の壁に歩み寄りこちらを向いて堂々としたバリトン張りで歌つた。顔も背広もはつきり見えた。背広は弁護士のよりは落ちるが体にフィットして良く似合つた。三番目は卑猥男。紺色のビジネススーツを着ていた。彼は貧弱であつた。死体姿はなお貧弱。顔も思い出せない。歌やダンスの場面をいくら努力しても思い出せない。といふことはこの男は歌も歌わずダンスもしていないのでは。ここまでたどつて私は製作者の意図を感じた。「この男に歌わせる歌はない。踊らせるダンスもない。」と。「卑猥こそつとも憎むべきもの」これが第一のテーマであると思つた。

(3) 第二のテーマはファイナレで弁護士と刑務所の女役人ママの喜びの中に主演の金髪女優は実力があるのに自信が持てない。一方相手役の黒髪の女優は自分を過大評価、主演女優を過小評価していた。この二人がどのようにして協力できるよになつたのだろうか。私は刑務所の女役人ママの言葉がその引き金になつていると考えた。彼女は黒髪の女優に主演女優のほうが優れていることをほめかけた。黒髪女優は「えっ」と言う顔になつたから、この時、気持ちに変化を生じたのである。彼女のほうから「二人で組んでやつて行こう」と誘う。いよいよ二人の初舞台。お揃いの真っ白い毛皮のコートををはおつて、前の隙間から脚線美をちらつかせながら、歌とダンスは穏やかで上品に。満員の観客の喝采をあげる。客席を順に写していく。見つけた！ 弁護士と刑務所の女役人ママが嬉しそうに観ているではないか。この様子を見て私は彼らの心情を次のように翻訳した。「誰も頼らずに二人で協力して出来たじゃないの。婦人参政権も獲得したのでこれから今後の活躍を期待しますよ。」(アメリカ 一九二〇・八 婦人参政権獲得 年表より)



二人の喜びの心情が第二の主題であると思つた。

フォスター・プラン活動報告

二〇〇五年春

同窓会では、活動の一つである「社会への貢献」の一環として、一九九一年より「フォスター・プラン」活動に参加をしております。

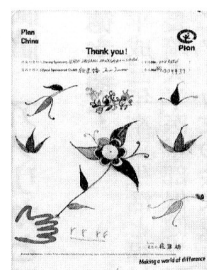
「フォスター・プラン」は、アジア・アフリカなどの発展途上国で、子供を取り巻く環境改善を目的として、保健衛生、住居改善、教育・人材育成、技術開発など、多岐にわたるプロジェクトを実施して地域開発を進めています。

同窓会では、皆様からの援助金を基に現在五名のフォスター・チャイルドの支援をしております。

皆様から頂く寄付金は、フォスター・チャイルドの家庭に個別に渡すのではなく、地域の多岐にわたるプロジェクトの実施や、チャイルドとその家族・地域の精神的援助も行つていきます。



〈ジェンメイドアンちゃん〉



平成十六年度の皆様から寄せられたご寄付は目標の三十万円をクリアしました。詳細は総会で発表いたします。皆様には大変感謝をしております。誠に有難うございました。今後とも皆様の温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

(フォスター・チャイルド プロフィール)

チャイルド名	性別	年齢	国籍	援助開始年月
ネナガ	男	11歳	インド	2000年9月
ジェンメイドアン	女	13歳	中国	2002年5月
エイザン	男	9歳	パキスタン	2003年2月
ロジーナ	女	5歳	バングラデシュ	2004年4月
スビュ	男	9歳	バングラデシュ	2004年7月

援助資金 ¥5,000/月 ¥60,000/年(1名)
年額合計 ¥3000,000/5名

- 一、当実行委員会の活動について
(年一回「波濤」に振り込み用紙を同封) 学部生及び他の同窓会員からのご寄付もありません。
- 二、フォスター・チャイルド五名への資金援助と文通などによる交流。
- 三、広報活動 参考資料(チャイルドの写真、手紙、成長記録等)のパネル展示 学習センターの談話室 フェスタヨコハマ会場 会報「波濤」での活動報告
- 四、講演会、勉強会の開催
- 五、チャイルドの母国大使館や関係機関との情報交換及びチャイルド訪問の検討
- 五、実行委員会の開催

平成十六年度はチャイルドとその環境の様子を見学するために、二月にバングラデッシュを訪問する計画をしておりましたが(費用自己負担)多発するテロ事件など世界情勢の不安などを考慮して訪問することを一時延期することにしました。どうぞご了承下さいませようお願いします。尚、同窓会ではF.P.活動にお手伝い頂けるかたも募っております。その他、お問い合わせ等は左記へご連絡下さい。

神奈川同窓会会長 五十嵐一成
携帯：090-2745-9406
フォスター・プラン実行委員 坂本

企画便り

「新シルクロード展」へのお誘い

(幻の都 楼蘭から 永遠の都 西安へ)
 今回は、テレビでも「NHKスペシャル新シルクロード」として放映されているタイムリーな企画を取り上げました。
 古より東西の文明の架け橋となり、多くの歴史の舞台となったシルクロード、世界遺産の魅力を出品点数約百三十点から感じとってみませんか。

会場の江戸東京博物館の常設展示室は、「江戸ゾーン」「東京ゾーン」「通史ゾーン」で構成され、浮世絵や絵巻、着物、古地図など約二千五百点、大型模型など約五十点あまり展示されています。皆様と一緒に観覧しましょう。

日時 平成十七年六月十九日(日)
 時間 十二時四十五分 現地集合
 十三時入館

場所 江戸東京博物館入り口
 交通 ・JR総武線 両国駅西口下車

・都営大江戸線 両国駅
 (江戸東京博物館前)
 A4出口 徒歩一分
 徒歩三分

〈観覧料金〉 当日券

新シルクロード展及び常設展共通券

一般 千五百二十円(千二百十円)

大学生・専門学校生

千二百十円(九百六十円)

高校生・六十五歳以上

七百六十円(六百円)

* (一)内は二十名以上の団体料金、いずれも

消費税込み

* お問い合わせ

大泉 ○四六(八四八) 三八八二

大花 ○四六(八六六) 二一九五

*十月以降の企画につきましては九月発行の「波濤」をご覧下さい。

同窓会からのお願い

同窓会活動に協力して下さい方を、役員一同切望しております。ご協力頂けそうな方のご推薦も、是非お願い致します。総会改選までに立候補して頂ける方、ご推薦して頂ける方、お問合せ等は、左記にご連絡お願い致します。

連絡先: 090-2750-4072

五十嵐 一成



会計・事務局からのお願い

神奈川県同窓会では、会員の皆様に、入会時に入会金5,000円、年度会費として1,000円を納入して戴いております。

「波濤」と同封の振込み用紙にて、平成17年度年会費をお振込み下さいますようお願い致します。

(過年度分、未納の方はご一緒にお振込みお願い致します。)

振込み用紙の記載について:

住所氏名を記入の際は、恐れ入りますが楷書での記入とフリガナの記載をお願い致します。

住所変更をされる方:

変更後の住所・電話番号等を振込み用紙に記入する際は、「住所変更」と朱書をお願い致します。

口座番号 00250-4-16183

〒232-0061

横浜市南区大岡2-31-1

放送大学神奈川学習センター内

神奈川同窓会事務局

卒業生による

講演会のご紹介

いのちを守る勇気
 命の価値 アフリカと日本

講師 徳永 瑞子氏

平成三年卒(生活と福祉)
 長崎大学医学部保健学科 教授
 アフリカ友の会代表

日時 六月五日(日) 十三時半受付
 十四時~十六時

場所 平塚カトリック教会聖堂
 平塚市夕陽丘四一三

参加費 当日五〇〇円

問合先 池永 氏
 ○四六三(五八) 五八八六



編集後記

三月二十五日に始まった二十一世紀初の万国博覧会の(愛・地球博)テーマの一つにエコロジーがあります。地球温暖化の防止のためにも環境について考えようというものですが、既にその被害は深刻化しています。日本でも連続真夏日が記録を更新したり、生態系が狂い東京では観測されなかった蝶が観測されたり、喜んではいられない変化があります。
 昨年十二月のスマトラ島沖地震もそんな警告の一つのように思えます。自分ができるエコロジーがどのように地球のためになるか考え継続していくことを心がけたいと思います。

F.N.

